

事業計画書

① 団体名	川辺復興プロジェクトあるく
② テーマ区分	指定テーマ (1) ・ 自由テーマ *該当するものを○で囲み指定テーマの場合は番号を記入してください。
③ 事業名	水害は「逃げるが勝ち！」
④ 採択回数等	2 回目 *令和2年度に採択され、継続する事業については、いずれかを○で囲んでください。 新制度の適用 (補助率4/5以内、上限160万円) ・ <u>経過措置規定の適用</u> (補助率1/2以内、上限100万円)
⑤ 事業目的	西日本豪雨災害を経験した川辺地区を中心とした真備町の住民が防災減災について考える場を作り、つながりや助け合いの関係性を築きながら防災力向上を目指す。 また、事業を進めていく中で学んだことやノウハウを県内外の方にも伝え、防災に強いまちづくりを目指す。
⑥ 現状及び課題	平成30年西日本豪雨災害により、倉敷市真備町では災害関連死を除く犠牲者51名のうち41名は高齢者や要援護者であり、そのほとんどは避難をすることなく自宅の1階部分で遺体となって発見された。 また、避難行動に関しては、若い子育て世代は子どもたちの安全を確保するために早めの避難をしようとする傾向だが、高齢者や自力で避難できない方、災害への意識の低さによって避難のタイミングを逃し、避難の遅れによって自宅で孤立しボートで救出された人も多くいた。 以上のことから、緊急時に住民同士が助け合うことができる関係性の構築が重要な課題である。 現在もなお、みなし仮設や建設型仮設で住み慣れた地域を離れての再建を余儀なくされており、被災者同士のつながりを密にする活動が求められていると同時に、 <u>真備町に帰ってからの生活(金銭面・安全面など)の不安を抱えている人も少なくない。</u> 令和2年度末に完了した災害公営住宅は緊急一時避難先にもなることから、 <u>災害公営住宅の住民と地域住民との繋がりも重要</u> となる。 令和2年度岡山県備中県民局提案型協働事業により防災意識向上に向けた取組を行っているが、 <u>防災はゴールや正解のないものである。</u> 引き続き、防災について考えるきっかけづくりとなる事業を地域全体で行っていく必要がある。
⑦ 事業内容	【1】 防災・減災をすすめる事業 ①防災カフェ (毎月1回) 防災を身近に感じ、楽しく会話やお茶会をしながら住民の興味に合わせて <u>防災のことを自分たちのこととして考えられるような「防災カフェ」を開催することで、防災の知識を身に付け、楽しく集うことでお互いが顔の見える関係づくりとなる。</u> 住民同士の繋がり強化は災害に強い町を目指す活動となる。 <u>防災に関する小規模な勉強会 (避難準備品、非常食の試食、ローリングストック、マイタイムラインづくり) など簡単にできることから開催し、課題を出し合う機会ともなる。</u> 令和2年度も毎月開催してきたが、令和3年度も継続して開催することで、個々が災害に備えるきっかけとなるようにする。また、興味はあるが、みなし仮設に住んでいてなかなか参加できなかったという方も真備町に引っ越してきたタイミングで参加できるようになっており、 <u>継続して開催することが大切</u> である。

②川辺みらいミーティングの開催（年2回程度）

ほぼ全世帯が被災した川辺地区において、我が家の再建や地域の復興が始まる中、住民同士が自分のできることを語り合い、助け合いながら地域の再生に向けての活動につなげるための話し合いの場として開催している。

災害に遭った私たち住民が、今後も起こるかもしれない災害を自分のこととして捉え、災害からの復興や地区防災計画のモデル事業となるよう、防災に関心の強い人たちが中心の実行委員会として、誰でも参加できるように企画運営をする。

町内会の再建やコミュニティの構築が自主防災組織の基となり、話し合いを継続することにより早めの避難と安否確認の必要性を共通理解する場となることから、川辺地区住民の防災意識の向上につながる。

令和2年度は、分散避難に関するアンケートとアンケート結果の報告会として第4回、避難ルートについて考える第5回と防災マップの報告会として第6回として開催した。

令和3年度は、安否確認を含めた避難訓練を計画している。

令和2年度に作成できなかった川辺みらいミーティングや住民からのヒアリング、話し合った経験や意見をまとめた冊子の作成については、令和3年度に実施したい。

また、令和2年度には避難時に近所の方が避難したか否かがわからず心配になったり、避難のタイミングが遅れたりしたことから、安否確認のための黄色いタスキを川辺地区の全世帯に配布した。このタスキを使った安否確認訓練を川辺みらいミーティングで実施したい。



③キッズ防災教育（小学校と連携）（年1～2回）

被災体験をした子どもたちの中で、親や家族の「避難スイッチ」を押して早めの避難行動につながったケースも多くみられたため、子どもたちが防災について学ぶことで、家族・地域の防災意識の向上につながると考えられる。そのため、令和2年度に引き続き、子どもたちに対して「楽しさ」を盛り込んだ防災教育を行い、併せて子どもたちが災害から命を守るすべを身につけることを目指す。

④非常時持ち出し品や備蓄品についての冊子作成（随時）

令和2年度事業で「防災おやこ手帳」を作成する中で、少しでも快適に避難生活をするうえで、防災グッズを備えることの重要性を再確認した。各家庭や家族の健康状態、避難先によって避難する際に準備するものや備蓄するものが違うことに気付いた。

令和3年度は、西日本豪雨災害の経験を基に、被災したからこそ分かった必要な備えを被災したことのない人に伝えるための、非常時持ち出し品や備蓄品に特

化した冊子を作成し、県内外の方の備えのきっかけづくりをする。

【2】 他地区への防災減災に向けての啓発活動

①講演活動の展開

発災後の私たちの経験や取組を発表する依頼をたびたびいただいている。
 私たちの経験に基づいて計画実現してきたイベントや防災の仕組みづくりは「災害を自分のこと」として考えるきっかけとなりそれぞれの防災意識の向上につながる。
 このような経験を他地区でも講演活動を展開して、防災・減災を備中地区はじめ、岡山県全体に発信する活動にする。

②「防災おやこ手帳」の活用

「防災おやこ手帳」は、分かりやすく、備えるきっかけになると好評をいただいている。引き続き、防災おやこ手帳の配布、防災おやこ手帳を活用した講演会などを実施し、県内外の防災力向上に努める。

⑧天災地変、感染症等で⑦の事業が実施できない場合の対応

*代替案の検討、事業縮小、事業中止など
 令和2年度に関しても、映像やオンラインを活用した実施、密を避けて屋外での実施など工夫して行った。令和3年度も2年度の手法を活かしながら、状況を十分に踏まえた上で代替え案や事業縮小などをしながら実施していきたい。

⑨今年度の成果目標と指標

防災の活動を通して、参加した人達が自分事として捉え、災害に対応できる準備をすることができるようになる。そして、地域をまとめる諸団体と連携し町内会や顔の見える関係の中で、防災の取り組みを行うことで「逃げ遅れゼロのまち」になる。

成果目標	指標	現状(数値)	目標(数値)
黄色いタスキを川辺地区の住民に配布することで自助共助の意識を高めること	黄色いタスキの配布枚数	904枚	1400枚
防災訓練などの取り組みで地域住民の防災意識の向上	川辺みらいミーティング参加者数	R2年度参加人数 開催3回 延べ108人 YouTube配信2回 約500回視聴	開催2回 参加人数 200人
おやこ手帳を活用しての講演会などで防災意識の向上を図る	講演会後のアンケート		

⑩中期(数年)的な目標

継続的に事業を実施することにより、防災への理解をより深めることができ、また、防災に関心を持ち出した新規の参加者が増加している。令和3年度についても、引き続き住民や参加者の防災に関する疑問を解決できるようにし、さらに、防災に対する見識を深めていきたい。
 また、川辺みらいミーティングで安否確認についての訓練をすることにより、近所同士の助け合いについて考えるきっかけを提供することができる。

⑪長期的な目標

防災については、継続的にイベントや講習会などを開催することで、平時の備えにつながり、いざという時の避難行動につながると考えている。
 本事業を通し、一緒に活動してくれる人材も増えたことから、地域防災を継続して行う体制を作っていきたい。
 水害の危険性がある地域に住んでいる人が「水害は「逃げるが勝ち！」」というのを、しっかりと理解し、逃げ遅れゼロの町を目指していきたい。

⑫翌年度以降の事業展開の予定	<p>防災意識を持ち住民が安心して暮らしていくためには、全ての住民が安全に避難することができるための仕組みづくりを進める必要がある。</p> <p>岡山県備中県民局提案型協働事業の助成の申請を継続し、川辺地区まちづくり推進協議会や諸団体と連携しながら、進めていきたいと考えている。</p>
⑬事業実施に関連する活動実績・アピールポイント	<p>令和2年度に関しては、コロナ感染拡大防止のため一部計画がずれ込んだものもあったが、アンケートを利用して防災意識の向上を図ったり、オンライン開催なども活用したり、啓発チラシを作成・配布したりして歩みを止めず概ね計画通り実施することができた。</p> <p>さまざまな立場の方（防災有識者・地域諸団体・医療関係者・消防団員・防災士・NPO・行政・大学生など）と連携しながら、どんな状況下においても今できることを考え、実施できたことは、コロナ禍だけではなく、災害などの緊急時の際にも、困難を乗り越えるための体制づくりの一端となる。</p> <p>防災についての事業を継続し、地域一丸となって防災に強いまちづくりを目指すための基盤ができつつあると感じており、令和3年度以降も連携を大切にしながら、防災まちづくりを展開していきたい。</p> <p>また、令和2年度に作成した「防災おやこ手帳」は全国の方に興味を持っていただき、「わかりやすく、友人などにもお勧めしたい」と多くの方から好評いただき、10,000冊を発行している。</p> <p>川辺地区の防災の取組も注目されており、滋賀県・渋谷区・鹿児島など県外からの講演依頼もあった。特に、川辺地区の取組から生まれた分散避難の考え方「マイ避難先」は、有識者からも評価いただき、川辺モデルの防災を広く伝えることができつつある。</p>
⑭想定される役割分担	<p>【団体】事業の遂行、会計管理、報告など</p> <p>【県民局】事業を進めるにあたって相談役、新型コロナウイルスについての情報提供、イベント開催時の告知集客、メディアへのプレス発表など</p> <p>【その他】</p> <p>【理由・期待できる相乗効果】</p> <p>県から発信されている新型コロナウイルスの対策についての情報を基に安全にイベント開催ができる。私たちが学んだ防災の知識を私たちだけのものにせず、他地域で水害の危険性がある場所で生活している人の防災力向上につながる。</p>

<記入上の注意事項>

- 1 それぞれの項目についてはできるだけ具体的に記入してください。
- 2 「⑤事業目的」欄は、事業を通じて目指す将来的な姿（社会、経済、生活、環境など）、解決したい地域課題や受益者等を踏まえて記入してください。
- 3 「⑥現状と課題」欄は、理想と現実とのギャップ（問題）、事業実施の要因となる地域課題等について記入してください。根拠となる統計データや当事者ニーズ等があれば、それも示してください。
- 4 「⑦事業内容」欄は、課題解決や事業目的における意味・位置づけとともに対象者、実施地域、実施方法などを事業項目ごとに分かりやすく記入してください。
- 5 「⑧天災地変、感染症等で⑦の事業が実施できない場合の対応」欄は、代替案の検討、事業縮小、事業中止などの考えを記入してください。
- 6 「⑨今年度の成果目標と指標」欄は、⑤の目的を果たすために今年度事業で目指すところ（短期の成果目標）を具体的に記入し、事業を評価するための指標と、実施前（現状）と実施後（目標）の数値について記入してください。具体的な数値が得られない場合は、目標と指標のみを記入してください。
- 7 「⑩中期(数年)的な目標」欄及び「⑪長期的な目標」欄は、⑤の目的を果たすため、中長期的に目指すところ（中長期の成果目標）について、具体的に記入してください。
- 8 「⑫翌年度以降の事業展開の予定」欄は、「⑩中期(数年)的な目標」及び「⑪長期的な目標」を踏まえ、翌年度以降に実施する予定の事業内容、組織体制、財源等について記入してください。
- 9 「⑬事業実施に関連する活動実績・アピールポイント」欄には、備中地域への波及効果、事業の先進性、先駆性及び独自性に関すること、継続事業における活動実績や成果等について記入してください。
- 10 「⑭想定される役割分担」欄は、協働協定書に基づく提案団体及び備中県民局の役割を記入するとともに、その他関連団体や機関の想定される役割等を記入してください。

日 程 計 画 表

年月	事業内容	場所	規模等
毎月 1回 程度	① 防災カフェ 楽しくおしゃべりやお茶を飲みながら学ぶ。住民の要望に応えられるところから進めていく ・災害時の食事、栄養 ・非常持ち出し品について ・防災グッズづくり（新聞紙でスリッパ、段ボールトイレづくり） ・避難所の生活を支えるグッズについて ・備蓄食品、ローリングストック（非常食試食会） ・段ボールベッド組み立て体験 ・マイタイムラインについて ・他被災地・未災地との交流 など	あるくイベント スペース「てくてく」 ※以下、 てくてく	1回定員 10人程度 ×12回
通年 (2回程度)	② 川辺みらいミーティング 被災後のまちづくりを地域の課題としてみんなで考える会を関係諸団体と協力して開催する。開催を通じて住民同士で話し合い、防災意識を高める。 ・安否確認のための仕組み・具体的な取組を考え、安否確認グッズを使用した避難訓練などを実施 ・実行委員会を月1回程度開催 ・みらいミーティングの取組結果をまとめた冊子を作成	川辺地区内	1回につき 40人～80人 ×2回程度 20人/回程度 約5,000部
通年	③ キッズ防災事業 ・楽しく、自然と防災意識が高まる防災イベントを実施 ・コロナ禍でも防災意識向上につなげるため、映像教材を作成し、学校や家庭で活用してもらう。	小学生・幼稚園	約30人程度 ×2回程度
通年	④ 非常時持ち出し品や備蓄品についての冊子作成 ・令和2年度に実施した、真備町の子育て世代対象のアンケートを基に、備えるためのハードルが下がるわかりやすい冊子を目指して作成し、希望者に配布する。	県内外	約2,000部
通年	⑤ 他地区への防災減災に向けての啓発活動 ・私たちの被災経験を基に、リアルな災害の状況を伝えることで、多くの方に防災・減災について考えるきっかけづくりをする。 ・防災おやこ手帳を配布し、教材としても活用し、引き続き県内外の防災力向上を目指す。	県内外	約300人

<記入上の注意事項>

- 1 事業実施年度の年間スケジュール案を記入してください。
- 2 「場所」欄は、想定される実施場所を記入してください（例：〇〇市文化センター、△△市内）。不明な場合、特定できない場合等は未記入で構いません。
- 3 「規模等」は、参加予定人数、印刷部数等数量的に想定される量を記入してください。不明な場合は未記入で構いません。